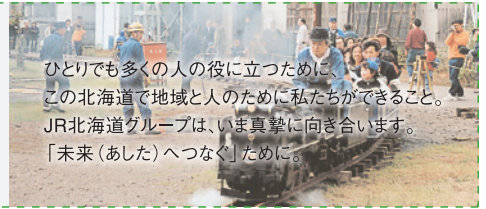


あした 未来へつなぐ

【安全対策】



ひとりでも多くの人の役に立つために、この北海道で地域と人のために私たちができること。JR北海道グループは、いま真摯に向き合います。「未来(あした)へつなぐ」ために。

文＝本間 吾里砂

**警報機、遮断機がない「第四種踏切」に
注意喚起に役立つストップサインを設置。
夜間は太陽電池によりLEDが点滅!**

J

R北海道では、「四つの柱」を基本として、

踏切事故防止の取り組みを実施しています。一つめは道路の立体交差化と踏切の統廃合等により、線路と道路の平面交差解消に努めること。二つめは踏切の設備を

着実に整備し、通行者及び列車にとつて、より安全な踏切となるよう努めること。三つめは踏切の通行者に交通ルールを守っていただくよう、踏切事故防止キャンペーン

による啓発活動を実施すること。最後の四つめは国・道・市町村の道路管理者等

関係機関と連携し、踏切事故防止策を推進することです。

なお、踏切には列車の接近を警報機と遮断機で知らせるタイプの「第一種」をはじめ、全部で四つの種類があります。「第二種」は保安係員が一定時間常駐し、遮断機を操作するタイプ。「第三種」は遮断機がなく、警報機だけ設置されているタイプ。そして、そのどちらもないのが「第四種」です。

種踏切が七十五カ所、第四種踏切が百四十二カ所で、第二種についてはすでに廃止されています(平成二十六年十月二日現在)。

このうち第四種踏切は、主に踏切幅が狭い場所や私有地などに設置されており、他の踏切に比べ、人の往来も多くありません。踏切警標や踏切注意柵はありますが、列車が踏切に近づいているかどうかの判断は横断する人にゆだねられるため、発生する事故のほとんどは、踏切無視が原因です。そのため、JR北海道では第四種踏切の安全度を高めるため、LEDにより夜間に光るストップサインの設置を進めています。

あることがはっきりとわかり、注意喚起に役立ちます。さらに夜間だけでなく、日中でも目立つよう、グレードの高い反射材を用いているのも特徴です。設置対象箇所は、休止中の十カ所を除く百三十二カ所。事前に、近くに学校があるか、車両通行が可能かなどを調査し、危険度が高いところから優先的に設置しており、平成二十七年秋までに終わらせる計画です。さらに、十一カ所については、踏切幅が狭く、自動車が通れないため、設置済みの六カ所を除き、五カ所に車両進入防止柵を新設。ちなみに第四種へのストップサイン設置は、国内ではJR東日本に

次いで二番目です。北海道において、第四種踏切は全体の約八%に過ぎませんが、JR北海道では安全最優先の取り組みを隔々まで展開し、踏切事故防止を目指していきます。



日中は反射材、夜間はLEDにより「ふみきり注意」と「まれ!」の文字が浮き上がって見え、そこに踏切があることが遠くからでもわかります。

道管内の踏切は全部で二千七百三十七カ所でしたが、立体交差化・踏切の統廃合等により、現在は千七百四十六カ所となっています。中でも第一種踏切が千五百二十九カ所と最も多く、第三

ソーラー充電により日中に蓄電し、夜間に点滅しながら光を放つこのストップサインは「ふみきり注意」と「まれ!」の文字が、暗闇の中で浮き上がって見えるため、遠くからでもそこに踏切が

次いで二番目です。北海道において、第四種踏切は全体の約八%に過ぎませんが、JR北海道では安全最優先の取り組みを隔々まで展開し、踏切事故防止を目指していきます。